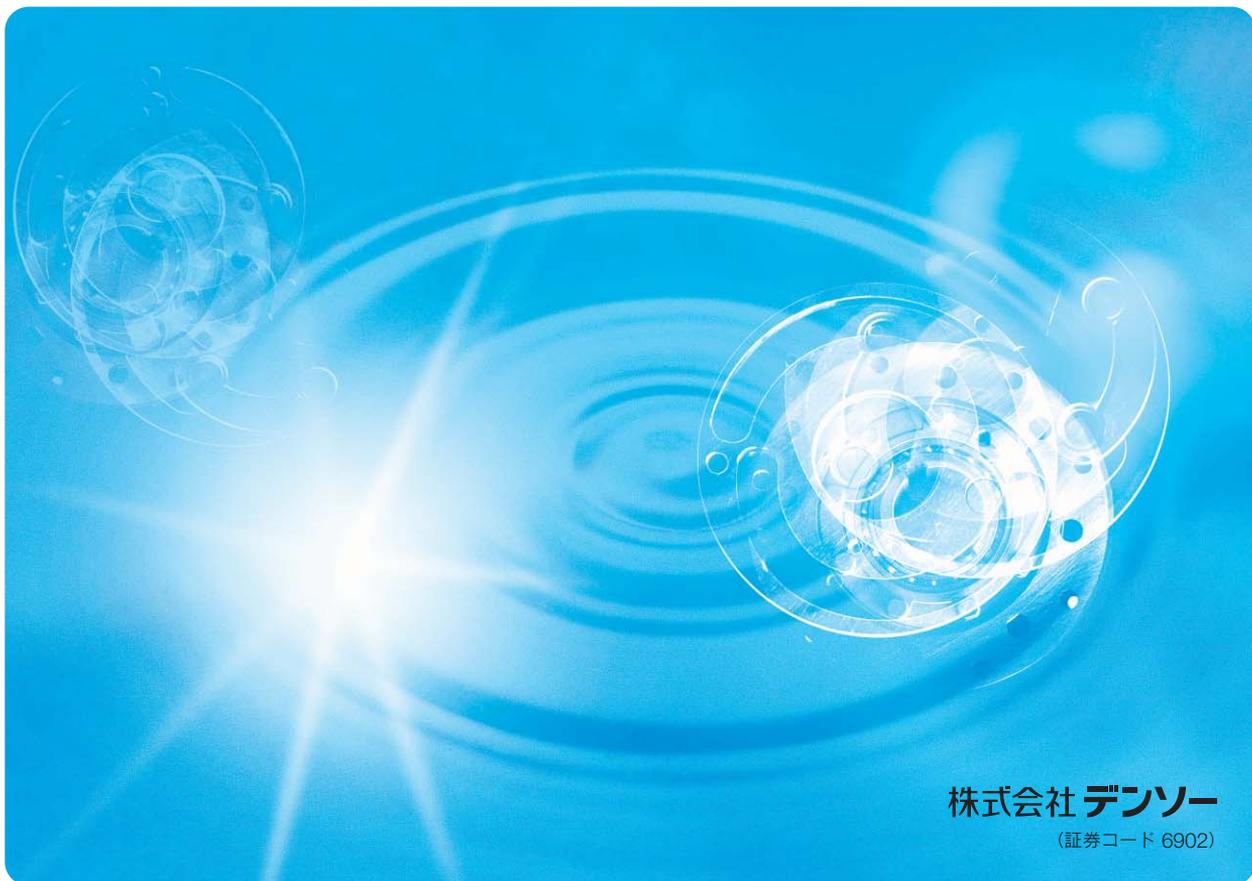


DENSO

株主のみなさまへ

2006年度 中間報告書

(2006年4月1日～2006年9月30日)



株式会社 **デンソー**

(証券コード 6902)

CONTENTS

2006年度 中間報告書
2006年4月1日～2006年9月30日

株主のみなさまへ	1
開発物語：電動可変バルブタイミングシステム	4
トピックス	6
新製品／新技術	
生産体制の強化	
CSR	
受賞	
こんなところにもデンソーが？！	8
主要製品一覧と主な得意先	9
連結業績の推移	10
セグメント情報	11
連結財務諸表	12
財務諸表(単体)	14
株式の状況	15
会社の概要	16
デンソーホームページ「投資家情報」ほか	17

株主のみなさまへ

平素より、株主のみなさまには格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
おかげさまで、当社は当中間期におきましても、好調な業績をおさめることができました。
業績の内容および、当社の今後の取り組みについてご説明させていただきます。

2006年度中間期の連結業績概況について

2006年度中間期の売上高は、1兆7,017億円と、前年同期に比べて12.9%の増収となりました。営業利益につきましては、原材料価格高騰の影響があったものの、増産効果や円安による為替差益に加え、コスト低減、生産性向上など経営全般にわたる合理化・効率化

に取り組んだ結果、1,383億円と前年同期比15.5%の増益、経常利益は1,486億円と前年同期比14.7%の増益となりました。

地域別に見ましても、全地域で増収増益となりました。特に、昨年後半から黒字に転じた欧州では、原材料価格高騰の影響はあったものの、拡販による増産効果や合理化努力などにより、黒字額が拡大しました。

中間純利益は941億円と前年同期比40.0%の増益となりました。好調な業績に伴いまして、中間配当金は前期より3円増配し、1株当たり21円とさせていただきました。年間では1株当たり42円とさせていただきます予定です。

通期の見通しにつきましては、原材料価格の高騰や為替の変動などのリスク要因がありますが、当中間期実績が好調であったことと、下期の為替前提条件を当初より円安と予測することから、売上高3兆5,000億円、営業利益2,880億円、経常利益3,030億円と、いずれも年初予想を上回ることを見込んでおります。



2010長期構想

当社は、「DENSO VISION 2015」の中で、2015年にめざす姿を「やさしさ」と「うれしさ」を世界の人々へと表現し、「先進的なクルマ社会創造への貢献」と「真のグローバル企業への進化」という2つの想いを込めました。このビジョン実現に向けた取り組みとして、2006年度から5年間の活動計画「2010長期構想」を策定し、7月に発表しました。

この中では、ビジョンの2つの想いに対して、6つの重点項目を次のように設定しました。

「先進的なクルマ社会創造への貢献」

(1) 商品開発

- 高機能化と低コスト化という市場ニーズの2極化に対応した商品開発を実施します。
- システムとコンポーネント双方において、世界初、世界一の商品を提供することで、新たな価値を提供します。

(2) 新規事業開発

- 市販および産業用機器、給湯機などの非自動車分野を、デンソーの成長を支える柱として確実に伸ばします。
- 新たな挑戦や発想を育む新事業へ継続的にチャレンジします。

(3) モノづくり

- 『品質のデンソー』のイメージをさらに高め、お客様へのブランド力を構築します。
- 世界の各拠点において、地域No.1 QCD(品質、コスト、納期)を実現するとともに、活気あふれる生産現場づくりを推進します。

「真のグローバル企業への進化」

(4) 事業運営

- 海外人材の知恵を活かした世界各極での開発・設計体制を構築します。
- 世界各地にある生産拠点を活用し、生産の“集中と分散”により、為替変動に強い事業構造を実現します。

(5) グループ経営

- 世界トップクラスのCSR(企業の社会的責任)先進企業をめざし、デンソーらしさを発揮した活動を実践します。
- 機能の横串強化と地域視点の付加により、グループ会社の自律的な活動を促進します。

(6) 人づくり

- 増大する海外オペレーションにおいて、現地の人主体で、しっかりとしたデンソー流マネジメントができる体制を構築します。

●多様な人材が知恵・能力をフルに発揮できる職場・
風土づくりを推進します。

一方、資本政策につきましては、今後とも配当と自己株式取得の組み合わせによる株主のみなさまへの利益還元を、継続的に実施していきます。

配当につきましては、「長期安定的に還元する手段」と位置づけ、連結業績および配当性向を総合的に勘案し、着実な配当水準の向上に努めていきます。

自己株式取得につきましては、「余剰資金を機動的に還元する手段」と位置づけ、事業計画や資金収支に基づいて、その金額を決定し、実施していきます。

以上、これらの活動を確実に推進することによって、売上高は、世界の車両生産の伸び率(年3%)を上回る年5%程度増加し、2010年には4兆円超、ROEは10%をめざしていきたいと考えております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

深谷 絃一

2006年11月

取締役社長



「開発物語」

電動可変バルブタイミングシステム



常務役員 機能品事業部 安達 美智雄

2006年9月に日本で発売された

レクサスLS460にはデンソーの新技术、
新製品がいくつか搭載されています。

その中の一つがトヨタ自動車株式会社と
共同開発した世界初の電動可変バルブ
タイミングシステムです。

開発の指揮をとった常務役員 安達美智雄に、
その役割や今後の期待などを聞きました。

✓ 可変バルブタイミング(VCT^{※1})システムとは？

車のエンジンに備えつけられた吸排気バルブの可変制御システムで、言うなれば心臓弁のようなものです。運転状態に応じて吸気バルブと排気バルブの開閉時期を最適化することによって、適正なトルクや出力が得られるようにバルブを制御するシステムです。このVCTシステムを採用すれば、エンジン出力・トルクの向上と燃費の改善、炭化水素(HC)・窒素酸化物(NOx)排出量の低減を高いレベルで両立させることが可能になります。

現在、世界中のガソリン車の約4割にVCTが搭載されていますが、当社はそのうち約4割を供給する世界シェアNo. 1のサプライヤーです。

※1 VCT: Variable Cam Timing

✓ 世界で初めて電動VCTを実用化

従来のVCTは油圧を介して作動させるものでしたが、今回当社は世界で初めてモータ駆動の電動VCTを開発しました。電動VCTはモータで直接吸気バルブの開閉タイミングを制御するため、従来に比べて広範囲に精密な制御が可能となり、車が本来備えている性能をより大きく引き出し、有効に活用できるようになります。

モータを使用するという電動化実現のアイデアが生まれたのは2002年頃。それからの開発期間は試行錯誤の連続でした。実用化までこぎつけることができたのは、エンジンはもとより、車を隅々まで知り尽くした当社の総合的な技術力と、それを形にできる生産技術および技能の力があったからこそ、と考えています。

✓ 環境負荷低減にも貢献

電動VCTは、性能向上以外にも燃費向上と排出ガスのクリーン化を実現できるため、環境負荷低減にも貢献します。

燃費の面では、電動化により、従来の油圧式VCTでは作動しなかったエンジンが暖まっていない低い温度からの作動や、エンジン回転数の低いアイドルからの作動もできるようになったため、低燃費での走行が可能になりました。エンジン停止時に次の始動に備えた最適なバルブ開閉タイミング制御ができることから、大きなタイミング変換角の設定が可能となり、燃費、出力性能がさらに向上します。

排出ガスのクリーン化という面では、燃焼温度が高いとNOxが多く発生しますが、VCTを使用すると内部のEGR※2により燃焼温度が下がり、NOxの発生を抑えることができます。また、吸気バルブで残ったHCを吸引して再度燃やすことができるため、低温始動時の排出ガス中のHCも低減できます。

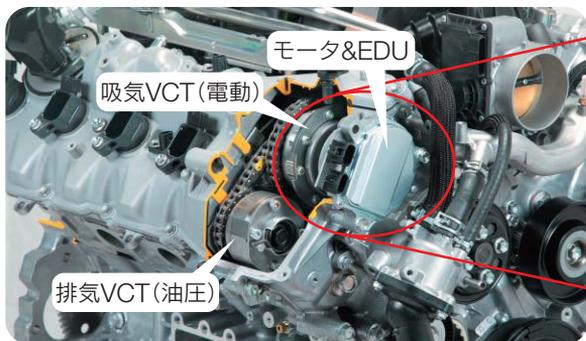
※2 EGR (Exhaust Gas Re-circulation) : 排気の一部を吸気に戻すことで、エンジンに入る空気の量を抑制し、燃焼温度を下げる技術

✓ 電動VCTへの期待と抱負

電動VCTはエンジンの性能に直結する製品ですので、トヨタ自動車のエンジン設計部門と協力しながら開発を進めました。スケジュールを含め、困難の連続でしたので、無事に搭載され、性能が高く評価されているのは何よりの喜びです。

VCTが搭載された場合、通常燃費は3~4%向上するといわれています。電動VCTの場合、その比率はさらに高まります。VCTが世界中の車で採用され、さらにそれが電動VCTとなれば、環境負荷低減という面で、多大な貢献ができるはずです。現在はまだレクサスLS460に搭載されたばかりですが、少しでも早く、多くの車に搭載されるよう、当面の課題である小型化と低コスト化に取り組んでいきたいと考えています。

レクサスLS460のエンジン



電動VCT



トピックス

TOPICS
01

新製品／新技術

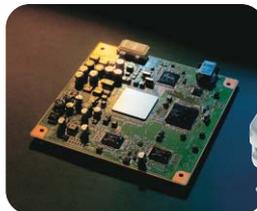
環境・安全・快適・利便の各分野で、2006年9月発売されたレクサスLS460用に、先進的な新技術、新製品を開発しました。各分野の主な新製品は次の通りです。

環境：世界初のモータ駆動による電動可変バルブタイミングシステム（詳しくは、P.4～5の「開発物語」をご覧ください。）

安全：新プリクラッシュセーフティ（PCS）システム用製品（世界初のステレオ画像処理ECU、走行支援ECUなどが採用されました。）

快適：乗員一人ひとりに快適な空調を提供する新エアコンシステム（世界初の赤外線センサ（マトリクスIRセンサ）などが採用されました。）

利便：世界初の高輝度発光ダイオード（LED）を使用したバックライトユニット採用のTFT液晶ディスプレイ付メータ



ステレオ画像処理ECU



マトリクスIRセンサ



TFT液晶ディスプレイ付メータ

TOPICS
02

生産体制の強化



幸田製作所

ICウエハ工場が稼働（日本）

エアバッグなどの安全システムや電動パワーステアリングなどの省燃費システムの増加による電子制御ユニット（ECU）の需要増加に対応するため、幸田製作所（愛知県額田郡幸田町）にICウエハ工場を増設し、2006年6月から新工場が稼働しました。

カーエアコンの新工場が稼働（スペイン）

スペインのカーエアコン生産新会社であるデンソー・システムス・テルミコス・エスパニーヤ社（2003年12月設立）が2006年4月に生産を開始し、プジョー、オペル向けにエアコンユニットなどの出荷を始めました。

カーエアコンの生産能力を強化（トルコ）

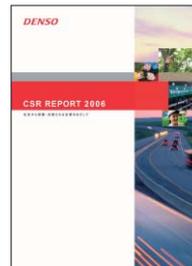
トルコのカーエアコン生産拠点であるデンソー・オトモーティブ・パルカラリ・サナイ社が、新工場の建設に着工しました。新工場は2007年6月までに完成する予定で、生産能力を現在の年間14万台から2010年までに25万台へ増強する計画です。

TOPICS
03

CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)

「デンソーグループ企業行動宣言」を発表

デンソー基本理念に掲げている「新しい価値の創造を通じて世界の人々に貢献する」という使命を達成するため、社員一人ひとりが果たす社会的責任を示した「デンソーグループ企業行動宣言」を発表しました。この宣言では、お客様、社員、株主様、仕入先様、国際社会、地域社会とより良い関係を築く行動を示しています。



「CSRレポート2006」を発行

1999年から毎年、環境・社会活動をまとめた「環境社会報告書」を発行してきましたが、社会的責任経営の考え方や取り組みについて、広くステークホルダー（利害関係者）に対して説明責任を果たし、ご理解と信頼をいただくために、2006年度から構成と内容を刷新し、名称を「CSRレポート」に改めました。

※「デンソーグループ企業行動宣言」および「CSRレポート2006」はホームページで閲覧できます。

<http://www.denso.co.jp/ja/csr/>

TOPICS
04

受賞

2006年気候保全賞(米国環境保護庁)

エジェクタサイクル®の開発により地球の気候保全へ貢献したことが認められ、米国環境保護庁から2006年気候保全賞を受賞しました。この賞は、気候保護のための努力と成果が認められた団体、企業などに与えられるものです。

※エジェクタサイクル®については2004年度事業報告書「開発物語」で紹介されており、ホームページでも閲覧できます。

http://www.denso.co.jp/ja/investors/financial/2005/march/pdf/business2005_3.pdf



2006年気候保全賞(米国環境保護庁)



Corporation of the Year
(General Motors)

Corporation of the Year (General Motors)

General Motors (GM)の第14回Supplier of the Year Awardにおいて、1996年、2000年に引き続き3度目のCorporation of the Yearを受賞しました。この賞は、GMの全世界の仕入先約30,000社の中から総合的に優秀と認められた仕入先1社が選ばれるもので、GMに対する当社のサービスや提案が高く評価されました。

こんなところにもデンソーが?!



デンソーロボット

人間型ロボットやペットロボットなど、身近な存在になりつつあるロボットですが、実は、デンソーは産業用ロボットのメーカーとしても長い歴史を持ち、小型の組立用ロボットではトップシェアを獲得しています。

デンソーロボットとは?

デンソーがつくるロボットは、製造業の生産現場で人間に代わって作業を行う産業用ロボットです。同じ動作を正確かつ高速に繰り返す、重量物などを運搬する、「きつい」「きたない」「きけん」に代表される悪環境下での作業など、単純な繰り返し動作や過酷な労働を代替し、生産性や安全性の向上・品質の安定化を実現します。デンソーでは「腕」のような形状の小型の組立用ロボットを中心に、お客様の要望に応じて多彩な作業に対応するロボットを開発しています。

ロボットユーザでもあるデンソー

デンソーでは、産業用ロボットが米国で実用化された時期にあたる1967年にロボット開発をスタートしました。1985年には社内のロボット化推進を目的としたロボット実用化プロジェクトを発足させ、以降、デンソーは社内の効果的・効率的な自動化の手段の一つとして積極的にロボットを導入・進化させてきました。その結果、現在では、全世界の産業用ロボットの1%を超える約1万5千台のロボットがデンソー社内で稼働しており、デンソーはロボットメーカーであると同時に、世界トップレベルのロボットユーザでもあります。

世界中の「モノづくり」に貢献

デンソーは社内で培った優れたロボットと高度なアプリケーション技術を武器に、1991年に外販を開始しました。現在では自動車分野をはじめ、電機・機械など幅広い業種で活用され、小型の組立用ロボットでトップシェアを獲得しています。

デンソーの高度な生産技術力に基づく生産システム開発の先進的チャレンジが、デンソーロボットを成長させる原動力となりました。高水準の品質保証、高生産性の確保、生産リードタイム短縮といった工場自動化の課題に挑戦しつづけてきたこと、デンソー社内で多数のロボットを使い込み、その経験やノウハウを積み重ねてきたことが、魅力あるロボットづくりにつながっています。今後も、「モノづくり」の強力なパートナーとして世界中の生産現場をサポートしていきます。



デンソーロボットの特長

- **ハイスピード&ハイパワー&スリム**
クラストップレベルのスピードとパワーを持ち合わせ、かつスリムでコンパクト。
- **豊富なラインナップ**
垂直系・水平系を取り揃え、アーム長も豊富で、最適なロボット選択可能。
- **高機能コントローラを採用**
ニーズに応える高い拡張性のコントローラを実現。

主要製品一覧と主な得意先

事業区分および主要製品

自動車分野

事業区分	主要製品
熱機器	冷暖房:カーエアコンシステム、バス・農建機用エアコン、トラック用冷凍機、空気清浄器 冷却機器:ラジエータ、冷却ファン、インタークーラ、オイルクーラ、フロントエンドモジュール、クーリングモジュール
パワトレイン機器	エンジン機器:点火コイル、マグネト、点火プラグ、グロープラグ、排気センサ、モノリス、DPF 機能品:各種バルブ(EGRバルブ、A/Tコントロールバルブ、A/Tソレノイドバルブ 他)、キャニスタ、ノックセンサ、アクセルセンサ、VCT、スロットルポデー、エアフロメータ、オイルフィルタ、エアクリーナ、吸気モジュール、シフトパイワイヤアクチュエータ、ホーン 燃料噴射:ディーゼルエンジン用製品(コモンレールシステム、列型・分配型ポンプ、ノズル 他)、ガソリンエンジン用製品(フューエルポンプ、フューエルポンプモジュール、フューエルフィルタ、インジェクタ 他)
電子機器	電子:エンジン制御コンピュータ、A/Tコントローラ デバイス:各種半導体センサ、モノリシックIC、ハイブリッドIC リレー
電気機器	電機:スタータ、オルタネータ EHV:インバータ、DC-DCコンバータ、電池監視ユニット EPS:電動パワステ用コンピュータ&センサ
情報安全	ポデー機器:メータ、エアコンパネル、リモートキー、ワイヤレスドアロックコントローラ、バック&コーナソナー、セキュリティシステム、ポデーコンピュータ ITS:カーナビゲーションシステム、ETC車載器、車両運行管理システム、データ通信モジュール 走行安全:エアバッグ用各種センサ&コンピュータ、ABS用アクチュエータ&コンピュータ、車間制御用レーザーレーダ&コンピュータ、プリクラッシュセーフティシステム用ミリ波レーダ&コンピュータ、ディスプレイランプ用パラスト、ヘッドランプコントロールシステム用コンピュータ
モータ	ワイバシステム、ウォッシュシステム、パワーウィンドモータ、パワーシートモータ、パワーステアリングモータ、他各種モータ

新事業分野

事業区分	主要製品
産業機器	自動認識関連製品:バーコードハンディスキャナ&ハンディターミナル、QRコードスキャナ&ハンディターミナル、非接触ICカード&リーダライタ、リモートID、セキュリティ機器 FA関連製品:各種ロボット、プログラマブルコントローラ 冷却・空調関係製品:機器用冷却器(携帯電話基地局用、コンピュータ用など)、灯油エアコン、スポットクーラ&ヒータ
生活関連機器	自然冷媒(CO ₂)ヒートポンプ式給湯機、自動水栓、昇降キッチン用モータシステム

主な得意先

国内	トヨタ自動車(株)、本田技研工業(株)、スズキ(株)、三菱自動車工業(株)、ダイハツ工業(株)、マツダ(株)、日野自動車(株)、いすゞ自動車(株)、富士重工業(株) 他
海外	ダイムラー・クライスラー、GM、フィアット、フォード、アウディ・フォルクスワーゲン 他



エアコンユニット



エンジン制御コンピュータ



メータ



カーナビゲーションシステム



産業用ロボット



コモンレールシステム



オルタネータ



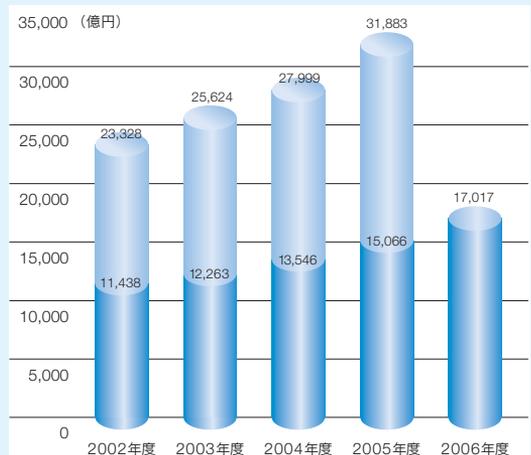
ワイバシステム



自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ式給湯機

連結業績の推移

売上高



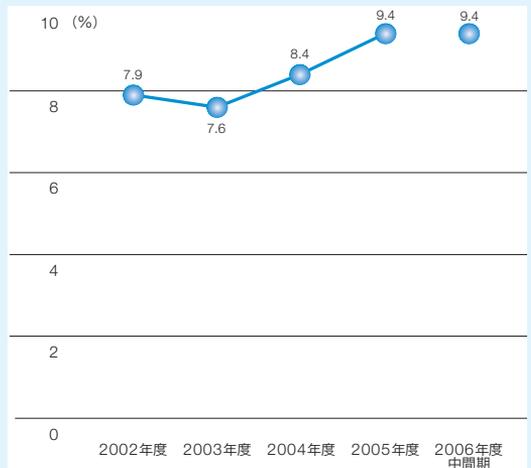
経常利益・当期純利益



1株当たり当期純利益



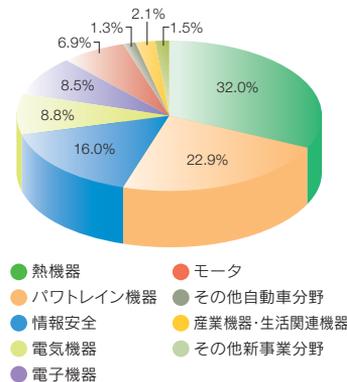
自己資本利益率 (ROE)



セグメント情報

■ 製品別売上高

製品別売上高構成

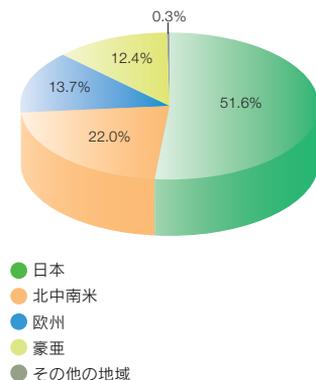


(注) 2006年1月に事業グループの再編を行いましたので、製品別売上高は新事業区分により開示しています。

	2006年度中間期		2005年度中間期		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
自動車分野					
熱機器	544,939	32.0	493,348	32.7	10.5
パワトレイン機器	389,987	22.9	345,587	22.9	12.8
情報安全	271,842	16.0	233,702	15.6	16.3
電気機器	150,466	8.8	124,163	8.3	21.2
電子機器	144,700	8.5	126,704	8.4	14.2
モータ	116,839	6.9	104,483	6.9	11.8
その他	22,298	1.3	21,326	1.4	4.6
小計	1,641,071	96.4	1,449,313	96.2	13.2
新事業分野					
産業機器・生活関連機器	35,269	2.1	33,776	2.3	4.4
その他	25,341	1.5	23,553	1.5	7.6
小計	60,610	3.6	57,329	3.8	5.7
合計	1,701,681	100.0	1,506,642	100.0	12.9

■ 地域別(顧客の所在地別)売上高

地域別売上高構成



	2006年度中間期		2005年度中間期		増減率 (%)
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
日本	878,099	51.6	803,637	53.3	9.3
北中南米	373,518	22.0	328,119	21.8	13.8
欧州	233,961	13.7	193,186	12.8	21.1
豪亜	210,208	12.4	177,542	11.8	18.4
その他の地域	5,895	0.3	4,158	0.3	41.8
海外計	823,582	48.4	703,005	46.7	17.2
合計	1,701,681	100.0	1,506,642	100.0	12.9

連結財務諸表

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	2006年度		科目	2006年度	
	中間期末	2005年度末		中間期末	2005年度末
資産の部			負債の部		
流動資産	1,408,226	1,400,593	流動負債	882,844	871,854
現金及び預金	289,256	180,446	支払手形及び買掛金	438,887	446,057
受取手形及び売掛金	590,478	592,374	短期借入金	74,728	95,781
有価証券	81,722	207,263	その他の流動負債	369,229	330,016
たな卸資産	306,334	287,571	固定負債	448,210	473,818
その他の流動資産	140,436	132,939	社債	50,000	100,000
固定資産	2,056,270	2,011,382	長期借入金	98,142	70,304
1 有形固定資産	1,019,371	974,975	その他の固定負債	300,068	303,514
建物及び構築物	239,197	236,157	負債計	1,331,054	1,345,672
機械装置及び運搬具	443,524	416,744	少数株主持分		
その他の有形固定資産	336,650	322,074	少数株主持分	-	95,915
無形固定資産	12,228	12,076	資本の部		
投資その他の資産	1,024,671	1,024,331	資本金	-	187,457
合計	3,464,496	3,411,975	資本剰余金	-	266,182
			利益剰余金	-	1,329,974
			その他有価証券評価差額金	-	319,186
			為替換算調整勘定	-	△14,562
			自己株式	-	△117,849
			資本計	-	1,970,388
			純資産の部		
			株主資本	1,723,670	-
			資本金	187,457	-
			資本剰余金	266,339	-
			利益剰余金	1,407,019	-
			自己株式	△137,145	-
			評価・換算差額等	310,043	-
			その他有価証券評価差額金	317,766	-
			繰延ヘッジ損益	△1,387	-
			為替換算調整勘定	△6,336	-
			新株予約権	73	-
			少数株主持分	99,656	-
			純資産計	2,133,442	-
			合計	3,464,496	3,411,975

1 有形固定資産

有形固定資産は前期より444億円増加しましたが、日本、米国、中国、タイなどでの設備投資が主なものです。

2 固定負債

固定負債は前期より256億円減少しましたが、主な要因は発行している社債のうち500億円が償還日まで1年未満となっており、流動負債へ振り替えられたためです。

連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	2006年度 中間期	2005年度 中間期
3 売上高	1,701,681	1,506,642
売上原価	1,412,975	1,246,665
売上総利益	288,706	259,977
販売費及び一般管理費	150,403	140,235
営業利益	138,303	119,742
営業外収益	16,727	15,676
受取利息配当金	8,885	6,461
その他	7,842	9,215
営業外費用	6,464	5,877
支払利息	2,710	2,031
その他	3,754	3,846
4 経常利益	148,566	129,541
特別利益	301	1,016
特別損失	1,461	11,249
税金等調整前中間純利益	147,406	119,308
法人税、住民税及び事業税	53,643	48,989
法人税等調整額	△6,216	△1,732
少数株主利益	5,859	4,820
中間純利益	94,120	67,231

3 売上高

売上高は、完成車輸出に支えられた堅調な国内車両生産と海外カーメーカーへの拡販などに加え、円安効果もあり、前年同期より1,950億円増加しました。

4 経常利益

経常利益は、銅・アルミなど素材費の高騰がありましたが、増収効果に加え、コスト低減、生産性向上などに取組んだ結果、前年同期より190億円増加しました。

5 フリーキャッシュ・フロー(①+②)

営業活動によるキャッシュ・フロー①が営業利益の増加などにより157億円増加したことに加え、投資活動によるキャッシュ・フロー②は43億円支出が減少したことにより、フリーキャッシュ・フローは、前年同期比200億円増の603億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	2006年度 中間期	2005年度 中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	147,406	119,308
減価償却費	105,364	87,580
売上債権の増減額(△:増加)	7,917	913
たな卸資産の増減額(△:増加)	△14,935	△13,063
仕入債務の増減額(△:減少)	△10,725	△8,602
その他	△63,221	△30,025
5 計	171,806	156,111
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△152,238	△132,062
その他有価証券の取得による支出	△23,175	△26,017
その他有価証券の売却による収入	63,836	48,235
その他	57	△5,942
5 計	△111,520	△115,786
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金及び		
長期債務の純増減額(△:減少)	4,070	41,803
自己株式の取得による支出	△20,130	△33
配当金の支払額	△16,526	△15,681
その他	△1,781	△896
計	△34,367	25,193
現金及び現金同等物に係る換算差額	601	2,599
6 現金及び現金同等物の増加額		
(△:減少額)	26,520	68,117
現金及び現金同等物の期首残高	313,611	231,846
現金及び現金同等物の中間期末残高	340,131	299,963

6 現金及び現金同等物の増加額(△:減少額) = ネットキャッシュ・フロー(①+②+③+④)

フリーキャッシュ・フローに、配当金支払額の増加、自己株式の取得による支出の増加などによる財務活動によるキャッシュ・フロー③と、現金及び現金同等物に係る換算差額④を加算したネットキャッシュ・フローは、前期より416億円減の265億円となりました。

財務諸表(単体)

貸借対照表 (単位:百万円)

科目	2006年度 中間期末	科目	2006年度 中間期末
資産の部		負債の部	
流動資産	853,166	流動負債	677,223
現金及び預金	189,977	支払手形及び買掛金	355,051
受取手形及び売掛金	376,067	その他の流動負債	322,172
有価証券	70,803	固定負債	358,769
たな卸資産	86,770	社債	50,000
その他の流動資産	129,549	長期借入金	68,000
		その他の固定負債	240,769
固定資産	1,880,655	負債計	1,035,992
有形固定資産	507,092	純資産の部	
建物及び構築物	108,745	株主資本	1,382,544
機械装置及び運搬具	202,215	資本金	187,457
その他の有形固定資産	196,132	資本剰余金	266,280
無形固定資産	8,498	利益剰余金	1,065,937
投資その他の資産	1,365,065	自己株式	△137,130
合計	2,733,821	評価・換算差額等	315,212
		その他有価証券評価差額金	316,599
		繰延ヘッジ損益	△1,387
		新株予約権	73
		純資産計	1,697,829
		合計	2,733,821

損益計算書 (単位:百万円)

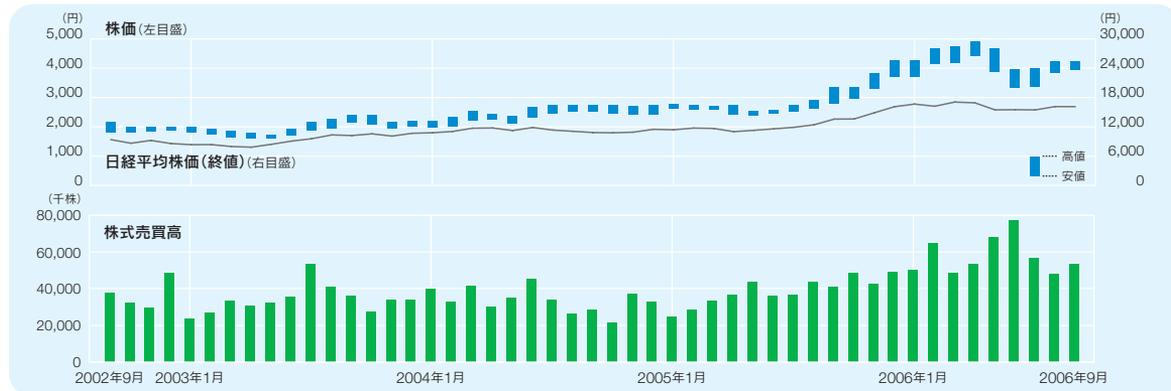
科目	2006年度 中間期
売上高	1,090,069
売上原価	942,602
売上総利益	147,467
販売費及び一般管理費	71,458
営業利益	76,009
営業外収益	22,825
受取利息配当金	17,098
その他	5,727
営業外費用	2,143
支払利息	374
その他	1,769
経常利益	96,691
特別利益	766
特別損失	3,846
税引前中間純利益	93,611
法人税、住民税及び事業税	33,604
法人税等調整額	△6,222
中間純利益	66,229

株式の状況

(2006年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,500,000,000 株
発行済株式総数	884,068,713 株
株主数	78,920 名

株価の推移



配当金の推移

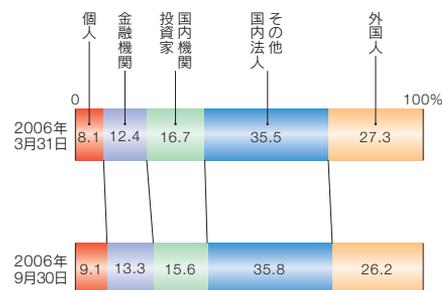
	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1株当たり中間配当(円)	11.00	13.00	18.00	21.00
1株当たり期末配当(円)	13.00	19.00	20.00	—
合計(円)	24.00	32.00	38.00	—

大株主(上位10名)

大株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
トヨタ自動車株式会社	203,127	24.74
株式会社豊田自動織機	69,373	8.45
ロバートボッシュ・インダストリー・アンラーゲン有限公司	47,434	5.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	46,106	5.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	40,703	4.95
日本生命保険相互会社	23,050	2.80
三井住友海上火災保険株式会社	16,148	1.96
デンソー従業員持株制度会	11,723	1.42
明治安田生命保険相互会社	9,373	1.14
第一生命保険相互会社	9,000	1.09

注) 当社は自己株式62,498千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

株式所有者別分布状況(議決権比率、%)



会社の概要

(2006年9月30日現在)

会社データ

社名	株式会社デンソー
英文社名	DENSO CORPORATION
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1 TEL 0566-25-5511(案内)
設立年月日	1949年12月16日
資本金	1,874億円
従業員数(連結)	109,247名(就業員ベース)
国内事業所	製作所・工場 安城製作所 西尾製作所 高棚製作所 幸田製作所 豊橋製作所 阿久比製作所 善明製作所 池田工場(以上 愛知県) 大安製作所(三重県) 広島工場(広島県)
研究所	デンソー基礎研究所(愛知県)
試験場	額田(愛知県)
支社・支店	東京支社・支店 大阪支店 広島支店
連結子会社	177社 (日本66社 北中南米33社 欧州30社 豪亜48社)
持分法適用会社	31社 (日本13社 北中南米6社 欧州2社 豪亜8社 その他2社)



本社



デンソー基礎研究所

取締役

取締役会長	岡部 弘	専務取締役	福崎 倫生
取締役副会長	齋藤 明彦	専務取締役	阿野 正敏
取締役社長	深谷 紘一	専務取締役	加藤 光治
取締役副社長	犬飼 卓生	専務取締役	花井 嶺郎
取締役副社長	松本 和男	専務取締役	徳田 寛
取締役副社長	岩月 伸郎	取締役	豊田 章一郎
取締役副社長	小川 王幸		

監査役

常勤監査役	堀内 伸晃
常勤監査役	渡辺 敏男
監査役	張 富士夫*
監査役	岸田 民樹*
監査役	齋藤 勉*

*社外監査役

常務役員

加藤 宣明	鹿村 秋男
大屋 健二	丸山 晴也
小林 耕士	Manfredo Nicoletti
松下 光生	榎野 孝和
太田 実	熊野 幹夫
広中 和雄	田島 明雄
土屋 総二郎	山中 康司
杉 光	北澤 栄
白崎 慎二	浅野 佳孝
西村 繁広	安達 美智雄
根井 也寸志	近藤 哲生
高尾 光則	鎌居 健一郎
柵木 充彦	若林 宏之
宮木 正彦	

デンソーホームページ「投資家情報」

<http://www.denso.co.jp/ja/investors/>



当社は、株主・投資家の皆様へタイムリーに情報をお届けするため、ホームページを活用した情報開示に積極的に取り組んでいます。ホームページでは、最新の決算情報、過去の報告書・財務データや、今後のIRスケジュールなどがご覧いただけます。

このホームページでは、2006年6月に開催した定時株主総会の模様を動画でご覧いただけるほか、最新のニュースリリースやCSRへの取り組みなどもご紹介しています。ぜひご利用ください。

DENSOニュースメール配信(無料)のお知らせ

株主・投資家のみならずみなさまへのサービス向上のために、EメールによるIR情報配信サービスを行っています。

ご希望の方は、デンソーホームページ「投資家情報」にアクセスした後、“DENSO ニュースメール配信”「登録はこちら」をクリックしていただくか、下記の登録サイトに必要事項をご入力の上、ご登録ください。

<http://www.dirmet.jp/6902>

新しい広告が始まりました

「クルマがずっと愛されるために」をキャッチフレーズに企業広告を展開していますが、2006年10月から新しいバージョンのテレビCMを放映しています。今回は「クルマの未来を見に行こう!」と題し、デンソーの技術を見にやってきた3人の子ども記者が、教わったクルマの未来に目を輝かせます。

未来を担う子どもたちを主人公にして、『笑顔を支える技術でありたい』という当社の願いを込めたテレビCMです。



DENSO CORPORATION

株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

配当金受領 3月31日

株主確定日

なお、中間配当を実施する場合は9月30日です。

単元株式数 100株

証券コード 6902

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同送付先) 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店

野村證券株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-232-711(お問合せ)

0120-244-479(各種手続用紙のご請求)

ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>